

ごあいさつ

日本小動物がんセンター
センター長
小林哲也



従来の動物のがん治療は、手術や化学療法のみで完結する、比較的シンプルな治療法が主流でした。しかし近年、動物の長寿を願うご家族の意識が高まり、より長期生存を目指す集学的治療が可能となってきています。2024年8月、日本小動物医療センターにどうぶつトランスレショナルリサーチセンターが加わり、最先端の免疫療法を新たな治療選択肢として導入することになりました。これにより、従来のがん治療の限界を超える可能性が広がっています。

日本小動物がんセンターは、患者一人一人に最適な治療を提供するとともに、動物のがん治療の未来を切り拓くことを目指しています。

診療についてのご案内

受診にはホームドクターからの紹介状が必要です(夜間救急診療科を除く)。

診察は年中無休です。

詳細は当センターのホームページにてご確認ください。



日本小動物がんセンター

〒359-0023
埼玉県所沢市東所沢和田1-10-3

☎ 04-2946-7313

各種クレジットカード・ペット保険に対応しております。



公益財団法人
日本小動物医療センター
Japan Small Animal
Medical Center

日本小動物がんセンター
Japan Small Animal
Cancer Center

どうぶつトランスレショナル
リサーチセンター
Integrative Center for
Animal Translational
Research (iCAT)



- ・農林水産大臣指定 小動物臨床研修診療施設
- ・文部科学省指定科研費研究機関
- ・キャットフレンドリークリニックゴールド
- ・日本動物病院協会 認定病院
- ・アジア獣医学専門医(AiCVIM)腫瘍科研修施設

日本小動物がんセンターの理念

患者のクオリティー・オブ・ライフ(生活の質)を最大限に尊重し、最善のがん医療を推進する。

基本方針

診療

エビデンス(根拠)に基づいた最先端のがん医療の実践

研究

動物のがんの克服を目指し、新しいがん医療の研究開発に尽力する

患者・ご家族の権利

- クオリティー・オブ・ライフ(生活の質)を重視した診療を受ける権利
- 十分な説明と情報提供を受ける権利
- ご家族の意思で検査および治療を選択あるいは拒否する権利
- 治療記録の開示を求める権利
- 個人情報保護の権利

がんセンターでの集学的治療

がんセンターでは、単独治療で十分な効果が得られない腫瘍に対して、複数の治療法を組み合わせることで最大の効果を目指す集学的治療を実践しています。腫瘍内科チームが司令塔となり、外科、放射線、免疫治療、リハビリテーションなどの専門家と連携し、最良のがん治療をご提供いたします。

腫瘍内科(化学療法)



小林 哲也



原田 慶

がんの疑いがある動物が来院した際には、まず腫瘍内科医が診察を行います。確定診断と精密検査の結果に基づき、最良の結果を導くための総合的な治療プランをご提案いたします。

緩和治療(支持療法)

緩和治療は終末期医療とは異なり、がん治療の初期から開始されます。腫瘍内科チームが中心となり、栄養状態の改善、痛みの緩和、併発疾患の管理など、動物が感じる言葉にできない苦痛を積極的に和らげます。

放射線治療科



澤田 治美

ピンポイント照射が可能な最新の放射線治療装置(トモセラピー)を使用し、腫瘍の種類や動物の全身状態、性格を考慮した上で、副作用を最小限に抑えた放射線治療プランをご提案します。

免疫治療科



免疫治療科



「第4のがん治療」と呼ばれる免疫治療を通じて、他の動物病院では実施が難しい、革新的な治療法をご提案いたします。

腫瘍外科



岩田 泰介



廉澤 剛



藤田 淳

当院には複数の外科専門医が在籍し、腫瘍内科チームとの緊密な連携のもと、最適な手術を計画しています。ご家族の価値観を尊重し、十分な説明を行いながら、腫瘍外科の原則に基づいた手術を実施いたします。

リハビリテーション科



吉川 和幸

がんリハビリテーションは、近年人医療でも発展を遂げている分野です。ご家族と共に、各動物のライフステージや希望に沿った最適なリハビリテーションをご提供いたします。

カウンセリング科



中森 あづさ

今や、がんと共に存する時代になり、ご家族の精神的負担も大きくなりました。治療の選択肢が増えたことによる迷い、闘病を見守り続けることのつらさなどなど、日々揺れるご家族の気持ちに寄り添い、より充実した日々を送ることができますように、専門のカウンセリングスタッフが控えています。